

# 十和田市立 新渡戸記念館だより



稲生川の穴籠工具の  
ばんづる、なかづる  
てんぱづるをモチー  
フにしたもの

新渡戸記念館蔵



新渡戸稲造博士の蔵  
書印と三本木原開拓  
の測量器具・大方儀  
をデザインしたもの

新渡戸傳翁銅像前に昨年新しく設置されたモニュメント

## 平成8年度太素顕彰会第一回評議員会開催

平成8年度太素顕彰会第一回評議員会が、6月25日10時30分からしもやま旅館で開催されました。評議員会では、太素顕彰会会長・水野好路十和田市長が議長を務め「平成7年度事業報告及び収支決算」並びに「平成8年度事業計画(案)及び収支予算(案)」について審議が行われ、原案通り可決承認されました。席上会長より太素顕彰会の更なる発展を願い、本年度中に法人化を進めていることが報告されました。

### 太素顕彰会評議員会



評議員会で挨拶する  
水野会長

太素顕彰会の評議員会は、太素顕彰会会長・水野好路十和田市長をはじめとする理事、評議員の出席のもとに行なわれました。はじめに水野会長の挨拶があり、つづいて会長の議事進行により理事一名の追加選任についての報告などの審議が行われました。特に平成7年度事業報告の中で、季刊「新渡戸記念館だより」の発刊や館内のパネル「新渡戸記念館ニュース」の展示が始められて市民に親しまれる体制になりつつある事などが伝えられました。また今年度から新しく「新渡戸氏ゆかりの地における調査」や「太素塚・新渡戸記念館周辺の環境整備計画の立案」が行われる事が報告されました。

### 太素顕彰会法人化にむけて

評議員会の席上、水野会長から「太素顕彰会のより一層の発展の為に現在法人化の手続きを進めています。昨年度から当会常任理事を新渡戸記念館の館長として常勤

させて体制の充実を図り、記念館だよりの発刊等の新事業も開始され、入館者数も前年比4.2%の増加となりました。更に社団法人太素顕彰会となることで、団体としての社会的信頼が増し、現在より一歩進めた活動が可能になると考えられます。」とのお話がありました。

たいそけんしょうかい

### 太素顕彰会について

にとべつどう

▶太素顕彰会のはじまりは太素・新渡戸傳の没後明治時代につくられた「太素講」にあります。講長は歴代首長が務めていました。この太素講は新渡戸傳と十次郎の偉業の顕彰を目的として太素祭の主催を中心に活動していましたが、その後大正時代には私設新渡戸文庫内に納められた新渡戸稲造博士の遺品などの保存も規約に加えられ、昭和39年の新渡戸記念館建設を機会に現在の「太素顕彰会」と名称を改め太素塚と記念館の管理運営をおこなうようになりました。

▶太素講時代の太素祭は、9月の秋祭り中日に行われていました。そして5年の節目には「没後何年祭」として盛大に開催しました。現在のように稲生川に上水された日(5月4日)にちなんで行なわれるようになったのは、昭和10年からです。





**太素顕彰会評議員**  
十和田観光電鉄(株)取締役社長 **小佐野 政邦**

十和田観光電鉄株式会社の経営を引き継いで27年になります。この間「地元の発展と共に」を経営理念に水野市政の観光立市にも協力してまいりました。太素顕彰会が機構改正し新規出発するに際し、当社で31年間総務部門の中樞を担って参りました現新渡戸館長を水野市長の要請により快く送り出しましたことで、今日「記念館だより」の発刊を始めとする市民に親しまれる体制に移行できたものと思われます。今後とも送客にはグループを挙げて協力させますので、観光面での目玉として太素塚・新渡戸記念館の充実と、新館建設を期待致しております。



**太素顕彰会評議員**  
十和田市商店街連合会会長 **三浦 芳靖**

札幌に先立ち、碁盤の目状に都市計画された美しい町並みと国道沿いに発達した商業区、これらは136年前に新渡戸三代が築いた基礎の上に形成されたものです。この開拓の様子を「オペラ」にと夢見たこともありましたが、その実現も近いようでこれも立派な顕彰事業の一つだと喜んでいきます。また以前訪問したカナダ・バンクーバーのニトベメモリアルガーデン等には盛岡市寄贈の色々なモニュメントがありましたので、十和田市も何らかの形で国際的に通づる記念物の設置が必要な時期と感じますし、カナダ旅行の際はぜひ見学して欲しいと思います。

7月の新渡戸記念館ニュースより  
新渡戸稲造を描いた芸術家たち①  
**彫刻家 朝倉文夫**

五千円札の肖像で有名な新渡戸稲造。彼の姿はこれ以外にもいろいろな芸術家たちによって描かれています。シリーズ「新渡戸稲造を描いた芸術家たち」では分野を問わず新渡戸稲造を描いた芸術家について紹介します。

**★朝倉文夫の生涯**

1883年(明治16)3月1日大分県直入郡に生まれる/1903年(明治36)東京美術学校彫刻選科入学/1906年(明治39)海軍の三提督銅像制作に応募、「仁礼中将像」が一等に/1907年(明治40)東京美術学校卒業/1908年(明治41)第二回文展に「闇」を初めて出品して二等(第一席)になり以後連続受賞(代表作「墓守」は第四回文展二等)/1921年(大正10)東京美術学校教授に就任/1924年(大正13)帝国美術院会員に選ばれる(後1928年辞任)/1927年(昭和2)



朝倉文夫氏




第一回朝倉塾展開催/1935年(昭和10)アトリエを改造し朝倉彫塑塾とする/1948年(昭和23)文化勲章受賞/1964年(昭和39)4月18日没す(享年81歳)

←『墓守』1910年(明治43)制作。第四回文部省美術展覧会(文展)において二等受賞、代表作となる。

**台東区立朝倉彫塑館**

朝倉彫塑館は1908年(明治41)朝倉文夫が24才の時建てた自宅兼アトリエがもとになっており館内には朝倉氏が自己反省の場として設計した中庭の「五典の水庭」や茶室もあります。アトリエだった部屋には朝倉氏の代表作「墓守」をはじめとする作品50点余りが展示されています。



**★朝倉文夫制作の新渡戸稲造**

**【新渡戸稲造博士胸像】**

朝倉文夫氏制作の新渡戸稲造博士胸像は1937年(昭和12)多磨墓地に同氏作の稲造博士座像を建てた時に関係者から遺族に贈られました。その後遺族より稲造博士生誕の地の盛岡市に寄贈され、盛岡市役所に安置していましたが銅製だったため戦時中に供出されてしまいました。そのまま幻の胸像となるところでしたが、1976年(昭和51)オリジナルの台座が見つかった事をきっかけに、東京の財団法人朝倉彫塑館(現・台東区立朝倉彫塑館)に保存されていた原型から復元して、当館に展示するようになりました。



台座に刻まれているのは和漢学の大家・吉田増蔵(当時の宮内省御用掛)の撰文揮書です。稲造博士の偉大な業績を讃えています。

**【新渡戸稲造博士座像】**



盛岡市の稲造博士生誕の地にある像

1933年(昭和8)稲造博士の遺骨が多磨墓地に埋葬された後、1937年(昭和12)稲造博士のお仲間やお弟子さん等の有志から依頼があり朝倉文夫氏が作成、新渡戸墓地通り入口にこの座像が建てられました。その後、稲造博士没後50年を記念し、盛岡市の「稲造博士生誕の地」にもこの像が立てられました。



七月の新渡戸記念館  
ニュースパネル



8月の新渡戸記念館ニュースより

新渡戸氏ゆかりの地を訪ねて1

15世紀居住 宮城県志津川町『水戸辺』  
と伝わる

新渡戸氏の歴史は代々伝わる『新渡戸氏系譜』によって古くは鎌倉時代から知ることができます。しかしその中で、戦国時代(15世紀頃)新渡戸氏がいたという奥州元良郡では、どこに住んでいたかなど細かい場所がはっきりしません。そこで今回は新渡戸氏の事跡をたずねて宮城県本吉郡志津川町「水戸辺」に行ってきました。



海に面している志津川町水戸辺

『新渡戸氏系譜』には、室町時代の始めにあたる14世紀頃、新渡戸氏は奥州元良郡(現・宮城県本吉郡)の郡代を務めていた、と記されています。特に15世紀に入り27代新渡戸盛頼の時には元良郡「高原城」に住み没後は「浄海寺」に葬られたと書かれています。そして28代頼胤が葛西重村によって討たれるまでの二代がここで暮らしていたということです。頼胤はその子良胤を西根(現岩手県金ケ崎町)に逃がし自らはそこで討ち死にし元良郡「安昌寺」に葬られたとあります。系譜からは高原城やそれぞれの寺の詳細な場所はわかりませんが、現在の本吉郡志津川町に「水戸辺」という地名があり「新渡戸」となんらかの関連があるのではないかと考えられます。そこで今回志津川町水戸辺を調査しました。



当館所蔵の巻の中で一番古いのは約450年前のもので、馬印も同年代と思われます。

調査レポート1 「新渡戸」と「水戸辺」

地元の人々に「水戸辺」の地名の由来を聞いてもわかりませんでした。栃木県に一文字ちがいの「水戸部」

という名前があり、そこも12世紀頃は新渡戸氏の領地だった事からかんがえて「新渡戸」と宮城県の「水戸辺」にもなにか関連があるのではないかと考えられます。「水戸辺」は「新渡戸」がなまったものとも考えられますが、当時は戦に負けると負けた一族はその血脈、歴史等すべて抹殺されました。そうした時代を考えると新渡戸氏が戦に負けたために名前をそのまま使うことをはばかって文字を変えたものではないかとも考えられます。

調査レポート2 「高原城」「浄海寺」「安昌寺」はどこ? 慈眼寺住職に聞く

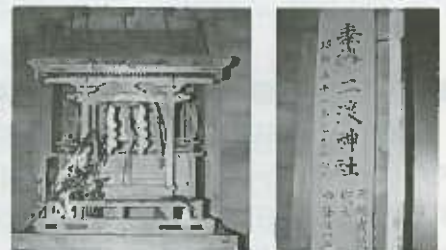
『新渡戸氏系譜』に書かれている「高原城」や「浄海寺」「安昌寺」をさがして志津川町役場を訪ねたところ、商工観光課の課長補佐を務める辻文生氏のご紹介で、水戸辺にある慈眼寺住職・佐々木泰淳氏にお話を聞くことができました。佐々木住職のお話では、水戸辺には廃寺となった寺が多くありその中に「浄海寺」「安昌寺」があるかもしれないのでお調べ下さるという事でした。また辻氏のお話では、付近には古い城跡がたくさんありその多くが主のわからないもので、その中の一つが「高原城」かもしれないとのことでした。



慈眼寺住職・辻氏と共に

調査レポート3 水戸辺の氏神・水戸辺神社の謎

水戸辺漁港の近くの小高い丘に「水戸辺神社」があると聞いて行ってみると、丘の上に小さなお堂がありました。地元の人によると水戸辺の氏神様だとの事で、古い本堂がまつられていてましたが、ふと右側の壁を見るとなぜか「二渡神社」とかかれた幟が奉納されていました。後でこの名前について町役場に問い合わせると、これは「にわたりじんじゃ」と読み水戸辺神社の正式名で古くからの名前とのことでした。その由来は「水戸辺」の地名と同様わかっていないとの事でしたが、この二つの名前の由来から新渡戸氏の事跡につながるのではと感じています。



水戸辺の人々の氏神「二渡神社」



八月の新渡戸記念館ニュースパネル



— 関連情報 —

●日野郵政大臣来館

社会民主党発足記念講演会で講演のため十和田市を訪れていた日野郵政大臣が8月31日来館しました。



ゆっくりと見学される日野郵政大臣

大臣の来館については畑山市議から連絡があり、当日は杉山・斉藤両市議の案内での到着でした。館長の説明で館内を見学するなか、7月の宮城県「水戸辺」調査の時お世話になった慈眼寺佐々木住職が偶然にも日野大臣の親戚の方だったということが分かって一同びっくり、という一場面もあり和やかなムードでの見学となりました。

●太素塚境内の衰弱したもみじ（推定樹齢150年）樹木医の治療を受ける

新渡戸記念館前にある高さ約10メートルのもみじ四本の枝先が枯れはじめたので、樹木医・中野渡誠氏（十和田市）斉藤嘉次雄氏（青森市）に見



もみじの根元の掘り起こし作業

て頂いたところ、すぐに処置しなければ死んでしまうと診断されました。衰弱の原因は根元が踏み固められてしまい酸素や水が供給されなくなったためとの事で、根元の土の掘り起こしと活性剤注入が行われています。

●6月1日から9月30日までの来館小学校

<十和田市> 東小学校 <八戸市> 八戸小学校・日計ヶ丘小学校・豊崎小学校・湊小学校・根城小学校・吹上小学校・下長小学校・城北小学校・旭ヶ丘小学校・凶南小学校・白鷗小学校・鮫小学校・江南小学校・長者小学校・江陽小学校・高館小学校 <六ヶ所村> 泊小学校 <五戸町> 豊間内小学校<名川町> 剣吉小学校 <南部町> 向小学校 <南郷村> 島守小学校

●十和田青年会議所「ディスカバー十和田」制作協力

当館では十和田青年会議所の本年度事業の一つ「ディスカバー十和田・開拓編」ビデオ制作に協力しております。これは十和田市の歴史をわかりやすく解説するもので今年10月12日十和田市民文化センターで開催される「新渡戸稲造杯弁論大会」において上映の予定です。

— 記念館資料の提供 —

●大蔵省印刷局記念館「お札づくりの日・記念特別展—日本の顔お札肖像の三人展」

7月27日から8月18日まで大蔵省印刷局記念館で開催された「お札づくりの日・記念特別展—日本の顔お札肖像の三人展」に、当館から10点の稲造博士関係資料を提供しました。これは、昨年制定の「お札づくりの日」（7月27日）にちなんで行われている記念特別展で、今回はお札の肖像となっている福沢諭吉、新渡戸稲造、夏目漱石の業績を遺品や写真の展示を通し分かりやすく紹介したものです。



新渡戸稲造関係展示コーナー

●花巻新渡戸記念館テーマ展「太平洋のかけ橋—新渡戸稲造の生涯」

花巻新渡戸記念館で6月30日からテーマ展「太平洋のかけ橋—新渡戸稲造の生涯」が開催されています。これは新渡戸稲造の写真を中心に蔵書や遺品を展示し、生前の人柄や業績をふりかえるもので当館からも稲造愛用のステッキや蔵書など関係資料5点を提供致しました。

— 活動報告 —

●新渡戸氏ゆかりの地での調査開始

新渡戸氏ゆかりの地での調査を今年7月16・17日宮城県志津川町水戸辺、今月17～19日栃木県二宮町水戸部で行いました。系譜によると宮城県の水戸辺に新渡戸氏がいたのは約500年前、栃木県に至っては約800年前の事で、調査は一朝一夕にはいきませんが今後も根気よく調査を続けていこうと考えています。

（宮城県での調査報告は3面で紹介しています）

●県史編纂調査研究員として館長第二回青森県史編纂近世部会に出席

平成27年度完成予定「青森県史」全50巻の編纂事業が今年からはじまりましたが、近世部分の編纂活動に当館館長も調査研究員として参加しております。その第二回近世部会が7月28日野辺地中央公民館にて行われました。部会メンバーの初めての顔合わせで、部会とあわせて野辺地の旧家所蔵資料の調査も行いました。

— 編集後記 —

新しい活動として「新渡戸氏ゆかりの地」の調査を実施しました。資料整理、目録作成などの館内活動と両立させながら館外での調査活動も根気強く行っていきたいと思っています。皆様の暖かいご支援をお願い申し上げます。

発行 十和田市立新渡戸記念館

〒034 青森県十和田市東三番町24-1

TEL (FAX) 0176-23-4430

印刷 有限会社 岩間印刷所